

書誌
年鑑

2025

有木太一
編

目 次

凡 例	vi
この本の使い方	viii
書誌目録	1
あ	3
か	75
さ	189
た	306
な	379
は	410
ま	471
や	497
ら	512
わ	532
書誌解説	537

凡 例

I 収録範囲

1 期間

日本で発表された各種の文献目録すなわち書誌のうち、2024年1月から12月までに発表されたもの、およびそれ以前の発表で『書誌年鑑』に掲載できなかったもの、合計10,071点(キーワード件数)と書誌解説18点を収録した。

2 内容

書誌は文献のリストなので、博物館などが編集・発行する動植物・鉱物の目録はもちろん対象外であるが、書誌の一分野である文書目録も対象外としている。近年地方・中央で多くの文書館が開設され、中世・近世・近現代の文書が多数発掘・保存される情勢となったので、本書では、文書目録の収集や目録化は、新しく大きく形成されてきた文書館界に任せるのが妥当だと考えている。本書収録の書誌は、文献探索上で書誌が必要とされる、人文科学・社会科学・生活科学の範囲のものにおおむね限られている。

3 採録

本書の編者が新刊の図書資料・雑誌から日常採録した書誌に、日外アソシエーツにおいて収集したデータから編者が選択・現物確認した書誌を加えている。

II 配列方法

1 「書誌目録」では、上記の書誌記述から件名・人名・地名・誌名などのキーワードを選定し、その五十音順に配列している。

2 「書誌解説」では、本書収録の書誌から、主題・形式などに特色のあるものを選択した。配列は解説者名の五十音順とし、同一解説者内ではキーワードの五十音順とした。

3 キーワード五十音順の配列においては、濁音・半濁音は清音とし、ヴ→ウ、ヂ→シ、ヅ→スとした。促音・拗音も直音とし、長音符(音引き)はアの前とした。

III 記述形式

1 キーワード

第1キーワードはゴシック体で表示。第2キーワードは「⇔」の後に続けて明朝体で表示し、同一記述を第2キーワードの位置にも副出した。

2 図書単行書誌

【書名 副書名 巻次】 発行所名 ☆
(著編者名) 発行年月 総頁数 判型

* 図書単行書誌では、書誌表示を☆印とした。

* 発行所名欄は下記のように省略した(以下3、4でも同様)。

○○大学 → ○○大 ○○短期大学 → ○○短大

○○教育委員会 → ○○教委

3 図書収録書誌

【書名 副書名】(著編者名) 発行所名 書誌表示
<収録書誌編者名> 発行年月 始-終頁

4 雑誌掲載書誌

「誌名 巻.号=通号」 発行所名 書誌表示
<掲載書誌編者名> 発行年月 始-終頁

* 雑誌全体の編者名(団体・個人)は省略した。

5 書誌表示

参考文献・引用文献・著書目録・著作目録・文献目録・業績・年譜など。長いものは短縮した。

6 頁記述

p: page f: front b: back r: random

pf: 前付部分に書誌があって、頁付がない場合。

pb: 後付部分に書誌があって、頁付がない場合。

p1-3f: 前付部分に書誌があって、頁付がある場合。

p1-3b: 後付部分に書誌があって、頁付がある場合。

pr: 各章節末に書誌がある場合。

* 連載ものは初回の掲載頁のみを記載した。

この本の使い方

1. アペリティブ

すでにご存じとは思いますが、書誌とは何であるかをまず確認しておこう。ざっくり言えば、書誌とは「本の選手名鑑」である。

野球やサッカーなどのプロスポーツ、あるいはAKBや坂道などアイドルグループには、「選手名鑑」「メンバー名鑑」といった本（ないし冊子）がある。運営会社など興行側でつくる公式本、一般の出版社や個人がつくる非公式本の別を問わず、スポーツなら各チームの選手について、アイドルならそのグループのタレントについて、プロフィールが紹介されている。単独で1冊にまとめられるほか、雑誌の特集記事や付録になったり、一部公営ギャンブルでは無料配布されることもある。

書誌はこれらと似ている。選手名鑑には、あるチームが試合で勝利することを目標として集められた選手の、氏名・出身地・生年月日・背番号・ポジション・身長・体重といった情報が出ている。これと同じように、書誌には、あるテーマを究明することを目標として集められた本の、書名・著者名・刊行年月・出版者（社）といった項目が掲載されている。チーム＝テーマに則って、選手＝本が紹介されている。書誌によって、あるテーマを明らかにするための本を知ることができる。

当『書誌年鑑』は、「書誌」というテーマに基づいて、書誌＝本の選手名鑑を集めた本。このことから“書誌の書誌”と呼ばれている。これにより、どんな「本の選手名鑑」が出ているかがわかり、あるテーマについて知りたい／調べたいと思った時に、どの本を読んだらよいかの指針となるのである。こうした用途を補うものとして、図書館にはOPAC（オンライン蔵書目録）が普及しているが、OPACではその館で所蔵しているものしか検索できないし、また隣接領域の文献がたまたま目に入るといっても生じないので、プラスアルファの効果は生まれにくい。

大学に入学すると、学術論文やレポートの作成についてオリエンター

ションを受けると思う。そこでよく言われているのが、学術論文の脚注から芋づる式に参考文献を探し求めるというやり方である。ところが、この方法はかなりの労力を要する。脚注には参考文献以外の内容も含まれており、文献の書誌情報だけをまとめようとしても余計なノイズが多いからだ。そもそも「論文」にどのように行き当たればよいのか。

そういう時に、まず『書誌年鑑』を手にしていただきたい。書誌＝文献一覧がテーマ別に多数並んでいる。読者は文献を探索する際にまず本書を使うことで、芋づるをたぐり寄せるエネルギーが軽減できるのである。

というわけで、当『書誌年鑑』は、単に物事を知る・調べることから一歩進んで、よりクリエイティブに、イノベーティブな論文やレポートを生産するための本であると言える。

2. プラ

『木綿のハンカチーフ』（太田裕美）や『硝子の少年』（KinKi Kids）など、数々のヒット曲で昭和・平成の時代を風靡した、作詞家の松本隆氏について調べてみよう。

本書『書誌年鑑2025』で、見出し語「松本隆」を探してみても、残念ながら見つからない。もちろん、そこで諦めてしまっただけでは調べごとはできない。こういう場合、本書の過年度版を閲覧することはもちろん、松本氏と関連のありそうな他のキーワードを探すことで、局面を打開できる可能性がある。松本氏が作詞家になる前に参加していたロックバンド「はっぴいえんど」を知っていれば、昨年版の392頁に見出し語「はっぴいえんど」が見つかるのだが、予備知識がなければ厳しいかもしれない。そこで、関連ありそうな単語として「流行歌」を本年版で引いてみよう。518～519頁に5件見つかる。さらに、本書の過去の版を見ると、『2022』の431頁にキーワード「松本隆」が1件発見された。

今ここで出てきた合計6冊の本のうち、任意の数冊を読むだけでも、松本隆氏についてそれなりの知識は得られるのであるが、それでは本書を「使いこなした」とは言えない。本書で検索しても、書誌が掲載され

ていない本の情報は抜け落ちているからである。テーマ別にどんな文献が出ているかを知りたいだけなら、『日本件名図書目録』などテーマ別文献索引、あるいは図書館 OPAC のキーワード検索を使えば足りる。

本書の真の出番は、その先にある。本書は“書誌の書誌”であるので、今出てきた6冊の本には、必ず書誌、つまり文献一覧が掲載されている。1冊手に取ってみると、そこにはその本を書くために著者が使った本が、参考文献一覧などの形でズラリと並んでいる。6冊それぞれの書誌に掲載されている文献を総合し、自分が読まねばならない本（単行書だけでなく雑誌記事や論文なども含む）をリストアップする。これが、文献調査の始まりである。

リストアップした文献がまだ少ないと感じられた場合は、関連するキーワードを拡げて検索するほか、ひきつづき本書の過年度版を閲覧しよう。『書誌年鑑』は1982年以降毎年刊行されており、数年に一度の割で『人物書誌索引』『主題書誌索引』という2冊の蓄積版も発行されている。そちらの書誌も参照すれば、さらに多くの文献が閲覧できるハズである。昨年版『書誌年鑑2024』にキーワード「松本隆」はないが、「流行歌」は7件ある。昨年版より前では、『2023』に「流行歌」2件、『2022』に「松本隆」1件と「流行歌」5件、『2021』に「流行歌」のみ5件、『2020』、『2019』に「流行歌」各3件、『2018』に「松本隆」1件と「流行歌」3件。これで、2017年以降に刊行された書誌は全てチェックできたことになる。なお、2021年以前は蓄積版でも検索できる。『人物書誌索引2015-2021』に「松本隆」2件、『主題書誌索引2015-2021』に「流行歌」が25件発見される。

さて、あるテーマに関して複数の書誌を検討していくと、どの書誌にも共通して掲載されている本があるのに気付く。これは、そのテーマについて調べる際に読んでおかなければ始まらない、どの著者も参照「せざるを得なかった」基本的な重要文献である。目標とするテーマについて、まずそうした本を探し出し、内容を徹底的に把握することにより、書こうとする論文に盤石な基礎が形成されることになる。

それ以外の文献は、バラエティに富んだ様々なものが掲載されている。

中には、直接関係あると思えないような文献もあるが、こういった文献はすべて、論文に枝葉を茂らせるためのものである。たとえば、『書誌年鑑2018』に『阿久悠と松本隆』という本が出ている。この本の書誌には、松本氏の同業者、阿久悠氏に関する文献も多数収載されていると予想される。『ペッパー警部』『勝手にしやがれ』などで有名な阿久氏について知ることは、松本氏を把握するうえで有力な材料になるハズである。たとえばまた、『木綿のハンカチーフ』の時代背景を語るには、同曲ディレクターの出身地である筑豊について知ることが必要だ。となれば、福岡県の地理や歴史に関する本がもしあれば、そこに関していえば松本氏に関連した本ということになる。

あとは、書誌で見つけた文献を徹底的に調べ上げれば、力作の出現は近い。ここまで来れば、あなたはもはや松本隆氏の“第一人者”といえよう。

3. デセール

残念ながら、本書の存在はあまり知られていないようだ。この原稿を書く際、いろいろな大学の「論文の書き方」のようなwebページを複数見てみたが、本書に触れているものを発見することはできなかった。しかし、逆に言うと、存在の知られていない本書を活用することで、あなたはライバルに一歩も二歩も差をつけることができるのである。

本書のような「書誌の書誌」は、欧米など諸外国では、国立図書館や最有力図書館学会の編集物であることが多いようだ。一方日本では、一介の個人編集者が細々と作り、それを志のある出版社が採算を度外視して刊行しているのが現状である。しかし今後、日本の学術や文化、とりわけ人文・社会分野においては、「書誌の書誌」を一瞥すれば、到達水準の高さが一目で読み取れるようになるであろう。過去の編者は、そう信じて本書を毎年編集してきたし、私もそのつもりでいる。末永くご愛顧を賜りたい。(有木太一)

【あ】

「アートシアター」	『アート・シアターのもくじのもくじ』(小野純一)	書肆盛林堂 2024.8	☆ 157p A5	あ
アートドキュメンテーション	「アート・ドキュメンテーション研究 32」 (JADS文献情報委員会)	アート・ドキュメンテーション学会 2024.5	文献目録 p91-98	
アーナンダガルバ	『「一切金剛出現」の研究 1 テキスト篇』(高橋尚夫)	ノンブル社 2024.7	著作 p12-16f	
アームストロング, L.	『ルイ・アームストロングのことばと人生』(外山喜雄ほか)	ポプラ社 2024.4	参考文献 p69-68	
アリア人 ⇨サンسكريット	『アリア人の誕生—新インド学入門』(長田俊樹)	講談社 2024.6	参考文献 p229-236	
RNA	『RNAの科学—時代を拓く生体分子』(金井昭夫)	朝倉書店 2024.7	参考文献 prr	
アーレント, H.	『〈砂漠〉の中で生きるために—アーレント政治哲学の現象学的研究』(押山詩緒里)	法政大出版局 2024.2	参考文献一覧 p1-18b	
アーレント, H.	『ハンナ・アーレントの政治哲学の射程—開発という活動の再考に向けて』(奥井剛)	春風社 2024.3	参考文献 p278-294	
アーレント, H.	『アウシュヴィッツ以後、正義とは誤謬である—アーレント判断論の社会学的省察』(橋本摂子)	東京大出版会 2024.11	文献 p257-268	
愛	『「愛とは何か」を科学する—一人が人を愛するとき、脳と心で何が起きているのか?』(L. フランク)	誠文堂新光社 2024.8	参考文献 p1-12b	
愛 ⇨人工知能	『AIは「月が綺麗ですね」を理解できるか?—愛と人工知能を哲学する』(岡本裕一朗)	SBクリエイティブ 2024.8	参考文献 p271-270	
愛 ⇨消費者行動	『人はなぜ物を愛するのか—「お気に入り」を生み出す心の仕組み』(A. アーヴィア)	白揚社 2024.12	参考資料一覧 p350-349	
「IATSS review」	「IATSS review 49.1=182」	国際交通安全学会 2024.6	総目次 p114-151	
「藍を継ぐ海」	『藍を継ぐ海』(伊与原新)	新潮社 2024.9	参考文献 p265-267	
愛川晶	『モウ半分、クダサイ』(愛川晶)	中央公論新社 2024.10	著作リスト 2pb	
合気道	『生命の力を高める「呼吸」—呼吸法から瞑想まで「氣の錬磨」のすべて』(多田宏)	世界文化社 2024.4	参考文献 2pb	
相沢正彦	「美学美術史論集 23」	成城大 2024.3	業績 p10-20	

ICT ⇨学校事務	『教育ICTがよくわかる本—総務・財務をつかさどり、教育支援を進めるためのICT活用』(柳澤靖明ほか)	学事出版 2024.6	引用参考文献 p120-121
アイランド	『アイランド—元大使が綴る意外な素顔とその魅力』(北川靖彦)	幻冬舎メディアコンサルティング 2024.4	参考文献 p160-161
愛知県 ⇨自動車産業	『ひとつとして同じモノがない—トヨタとともに生きる「単品モノ」町工場の民族誌』(加藤英明)	春風社 2024.1	参考文献 p5-15b
愛知県 ⇨三重県	『地域別図書目録 東海2 愛知県三重県』(野口武悟)	日外アソシエーツ 2024.1	☆ 7, 710p A4
愛知県 ⇨社会福祉	『0から100歳の地域包括ケア』への挑戦—大学と地域の協働研究』	日本福祉大 2024.3	引用文献 prr
愛知県 ⇨遺跡・遺物	『発掘調査報告書総目録 愛知県編』	奈良文化財研究所 2024.7	☆ 3, 154p A4
愛知県	『愛知「地理・地名・地図」の謎—意外と知らない愛知県の歴史を読み解く! 増補改訂』(大塚英二)	実業之日本社 2024.9	参考文献 p204-205
愛知県史	『愛知の名所いまむかし—明治・大正・昭和』(岩瀬彰利)	風媒社 2024.2	参考文献 p164-165
愛知県史	『日本史のなかの愛知県—身近な史跡・文化財を通して、地域の歴史と文化を読み直す』(梅本博志)	山川出版社 2024.5	参考文献 p186-189
愛知県史	『穂の国探究—語り継ぎたい東三河の歩み』(大塚耕平)	東愛知新聞社 2024.7	参考文献 p149-150
愛着障害	『愛着トラウマケアガイド—共感と承認を超えて』(工藤由佳)	金剛出版 2024.3	参考文献 p207-211
愛着障害 ⇨発達障害	『「愛着障害」なのに「発達障害」と診断される人たち』(岡田尊司)	幻冬舎 2024.3	参考文献 p331-333
愛着障害	『メンタライゼーションと遊ぼう—愛着外傷への支援が解き明かすこころの臨床』(池田暁史)	日本評論社 2024.8	文献 p187-198
愛着障害 ⇨心的外傷後ストレス障害	『愛着障害と複雑性PTSD—生きづらさとの心の傷をのりこえる』(岡田尊司)	SBクリエイティブ 2024.9	参考文献 p391-390
ITガバナンス	『パナソニックに学ぶIT業務システム入門』(津田博ほか)	中央経済社 2024.2	参考文献 prr
アイデンティティ ⇨青少年	『「若者」とは誰か—アイデンティティの社会学』(浅野智彦)	河出書房新社 2024.11	引用参考文献 p273-279
愛南町(愛媛県) ⇨遺跡・遺物	『愛南町内遺跡 3 平城貝塚—総括報告書』	愛南町教委 2024.2	参考文献 prr
アイヌ	『知れば知るほど面白いアイヌの文化と歴史』(瀬川拓郎)	宝島社 2024.1	参考文献 p222-223
アイヌ ⇨工芸美術	『Ainu art—モレウのうた 2023-2024 改訂』(北海道立近代美術館ほか)	アイヌ民族文化財団 2024.1	参考文献 p86-87

アイヌ ⇨「ゴールデンカムイ」	『ゴールデンカムイ絵から学ぶアイヌ文化』(中川裕)	集英社 2024.2	ブックガイド p545-546
アイヌ ⇨デニング, W.	『英国人宣教師ウォルター・デニングとCMS関連資料研究成果報告書—明治初期のアイヌ伝道に関する研究事業』	田辺陽子 2024.2	参考文献 p64-66
アイヌ	『アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告 23』	アイヌ民族文化財団 2024.3	引用参考文献 p552-554
アイヌ ⇨音楽	『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 9』(甲地利恵)	北海道博物館 2024.3	文献リスト p1-30
アイヌ ⇨漆器	『漆器からみるアイヌの社会と文化』(浅倉有子)	北海道出版企画センター 2024.3	参考文献 p52-53, 95-101, 108, 148-149, 247-248, 253
アイヌ ⇨食生活	『アイヌ民俗技術調査 15 生活習慣(食)に関する民俗技術 2』	北海道教委 2024.3	参考引用文献 p271-272
アイヌ ⇨織物	『アットゥシと太布—糸がつなぐ文化』(帯広百年記念館ほか)	アイヌ民族文化財団 2024.9	参考文献 prr
アイヌ	『最新アイヌ学がわかる』(佐々木史郎ほか)	エイアンドエフ 2024.10	参考文献 prr
アイヌ語	『アイヌ語調査資料のデータベース化に関する基礎的研究 13』(佐藤知己)	北海道大 2024.3	参考文献 p94-95
アイヌ語 ⇨地名	『アイヌ語地名の歴史』(児島恭子)	吉川弘文館 2024.8	参考文献 p228-238
アイヌ語	『アイヌ語広文典』(中川裕)	白水社 2024.10	参照参考文献 p629-649
アイブズ, C.	『アイブズを聴く—自国アメリカを変奏した男』(J. P. パークホルダー)	アルテスパブリッシング 2024.9	参考書目 p498-501
始良市	『始良市誌 3 近代・現代編、民俗編』(始良市誌編集委員会)	始良市 2024.2	参考文献 prr
アインシュタイン, A.	『アインシュタインの旅行日記—日本・パレスチナ・スペイン』(A. アインシュタイン)	草思社 2024.8	参考文献 p392-377
青木清	『南山法學 47.3・4』	南山大 2024.6	著作目録 p535-542
青木文夫	『福岡大学人文論叢 55.4=219』	福岡大 2024.3	業績 8pb
青戸泰子	『関東学院大学人間環境学会紀要 41』	関東学院大 2024.7	業績 p139-143
青森県 ⇨原子力産業	『原発・核燃と地域社会—弘前大学の核燃講義』(福田進治ほか)	北方新社 2024.12	参考文献 prr
青森県史 ⇨地域開発	『下北半島過去から未来への飛翔—地域開発150年の軌跡』(末永洋一)	五味大典 2024.10	参考文献 p296-303

青柳秀雄 『知られざる佐渡の郷土史家・蒐集家—青柳秀雄の生涯とその業績』
(北見継仁編著) 皓星社 2024.4 290.6p A5

新潟県佐渡郡小木町(現佐渡市)小比叡山蓮華峰寺の住職で、昭和前期に佐渡の方言、民俗学、郷土史研究に取り組み、佐渡民俗研究会を立ち上げるなどして、多くの著作と出版物を残し、また、佐渡郷土資料の蒐集家としても全国に名を馳せた青柳秀雄(1909-1969)の生涯と業績を、著作年譜形式でたどり、再評価したものである。

全体は2部構成で、第1部に著作年譜、第2部に自らが編集発行人となって刊行した雑誌の創刊号等を復刻し収録する。巻末に、菊地暁「民間伝承の会「支部」をめぐる」と小林昌樹「ブックコレクターとしての青柳秀雄」の解説、及び、人名、書名、事項の総合索引を付す。

青柳は1924年9月、15歳で私家版の月刊文芸誌「森の泉」を発行したのを皮切りに、30年1月には、自宅を発行所にして、雑誌「佐渡郷土趣味研究」(第12輯、1932.7まで)、『佐渡相川方言』(佐渡民俗研究会)、『佐渡海府方言集』(同)などを相次いで刊行した。一方で、全国誌の「旅と伝説」(三元社)、「民俗学」(同会)、「民間芸術」(民間芸術の会)、「図書週報」(古典社)などにも旺盛に投稿した。第1部はそれらを発行年月日順に採録し、書誌事項と詳細な解題、周辺領域の動向を記す。「佐渡郷土趣味研究」ほかの青柳が編集発行した雑誌は、総目次も掲載している。「図書週報」は書物雑誌で、同誌には新潟や佐渡の民俗学書誌を寄せており、その全文を収録している。さらに、参考文献及び引用文献と図版目次、青柳が佐渡民俗研究会から刊行した『明治、大正、昭和年間、佐渡に於て刊行されし雑誌一覧』(1933.10)を元に作成した佐渡の雑誌一覧がある。

第2部は、青柳編集の次の5点を復刻し掲載している。「佐渡郷土趣味研究」第1輯(青柳発行、1930.1、謄写版)、「土俗研究」創刊号(青柳発行、1932.5、同)、「佐渡研究」第1輯(青柳発行、1933.8)、「佐渡研究」創刊号(佐渡史談会、1933.10)、『佐渡蒐集家名簿』(佐渡民俗研究会、1932)、『佐渡蒐集家名簿』は状態が悪いため新たに翻刻し、他はいずれも原本を版下にしての復刻である。

青柳は柳田の知遇を得て、佐渡研究の先導的役割を果たしたが、やがて柳田とも距離を置き、戦後には住職に専念したこともあって、現在では忘れられた存在になっていた。解説で小林氏が完璧系と称した佐渡文献コレクションもいつしか散逸し、刊行物を所蔵する機関も少ない、1932年7月創刊とされる「佐渡珍書研究」の現物はみつからない。こうした困難な状況下で、国立国会図書館、新潟県内の図書館等を博搜、またコレクションを買い戻すなどして精緻な著作年譜を仕上げ、全貌を明らかにした功績には敬服するばかりである。(飯澤文夫)

◎配列はキーワードの五十音順とした。

◎解説者 五十音順。()内は新旧関係機関など。

有木太一(本書編者)
飯澤文夫(元明治大学図書館)
鈴木一正(元国文学研究資料館)
増井ゆう子(元国文学研究資料館)
水村里都代(東京農業大学第一高等学校・中等部)
雪嶋宏一(早稲田大学名誉教授)

《目次》

1. 青柳秀雄	飯澤	539
2. 芥川龍之介	鈴木	540
3. 安全保障	有木	541
4. 『伊勢物語』	増井	542
5. 音楽	雪嶋	543
6. 海洋	雪嶋	544
7. 奇術	増井	545
8. 埼玉県史	増井	547
9. 佐野繁次郎	鈴木	548
10. 児童図書	水村	549
11. 「土の香」	飯澤	550
12. 刀剣	有木	552
13. 読書法	水村	553
14. 文学	鈴木	554
15. 無政府主義	飯澤	555
16. 安江明夫	増井	556
17. 吉村昭	鈴木	557
18. 料理	有木	559

編者略歴

有木 太一（ありき・ふとし）

1968年生、早稲田大学第二文学部卒。深井人詩氏に師事して、在野の書誌研究者となる。2016年版から中西裕氏のもと『書誌年鑑』の編集に加わり、中西氏勇退後の2018年版から編集作業を引き継いだ。編著書は『書誌年鑑』のほか、『人物書誌索引 2015-2021』（中西氏と共編）、『主題書誌索引 2015-2021』（同）。

「最近の書誌図書関係文献」（日外アソシエーツHP）
毎月連載。



書誌年鑑 2025

2025年12月25日 第1刷発行

編 集／有木太一

発 行 者／山下浩

発 行 行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

©ARIKI Futoshi 2025

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えます>

〈中性紙北越淡クリームキンマリ使用〉

ISBN978-4-8169-3079-9

Printed in Japan, 2025